

1 技術的資料

(4) 点字などの表示 ①

設計のポイント

視覚障害者は、視覚情報の認知が困難であるため、触覚・聴覚により情報を得ることから、点字による情報提供が有効となります。

点字は、文字情報を6つの凸点の組み合わせで表示するもので、視覚情報を触覚情報に置き換えたものです。

但し、点字は全ての視覚障害者に理解されているわけではなく、中途障害者の中には点字を読めない人もいることから、浮き文字や凹凸の印等も有効な表示となります。

また、点字シールは剥がれやすいのでメンテナンスが必要です。

□点字は、縦3点×横2点=6点で仮名やアルファベット1文字を表します。

□点字は、全て左から右に向かって読みとります。

点字の読み方

(五十音)

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ		
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ	ヲ	ン		

(濁音)

ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
ダ	ヂ	ヅ	デ	ド
バ	ビ	ブ	ベ	ボ
パ	ピ	プ	ペ	ポ

(拗音)

キャ	キュ	キョ	ギャ	ギュ	ギョ
シャ	シュ	ショ	ジャ	ジュ	ジョ
チャ	チュ	チョ	ビャ	ビュ	ビョ
ニャ	ニユ	ニョ	ミャ	ミュ	ミョ
ビャ	ビュ	ビョ	リャ	リュ	リョ

(アルファベット)

外国文字	A	B	C	D	E	F	G	H	I
	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
外国語引用符	S	T	U	V	W	X	Y	Z	

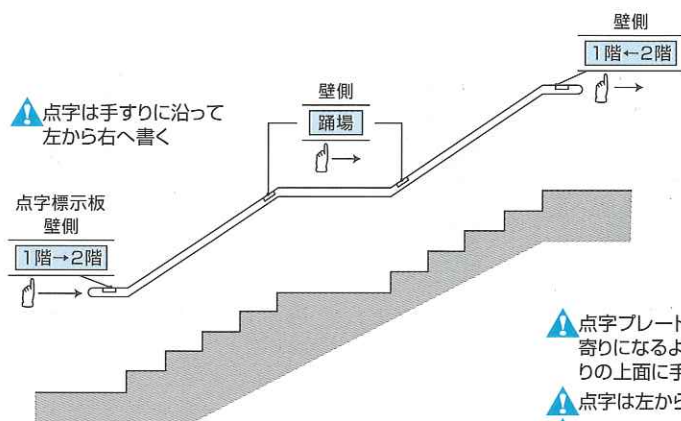
(記号)

長音	促音	「」	カギ	()	カッコ
----	----	----	----	-----	-----

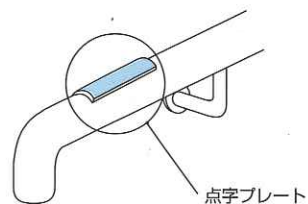
(数 字)

数符	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

階段手すりと点字表示取付例



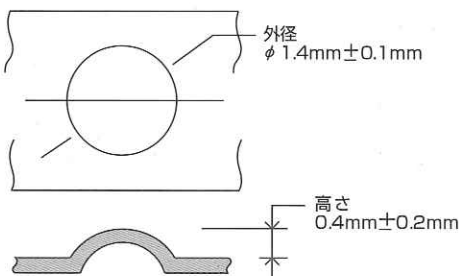
階段手すり表示の例



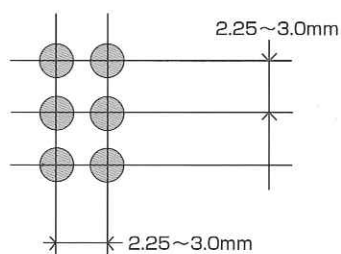
- ⚠ 点字プレートは最も手に触れやすい場所で天井に向けて上またはやや壁寄りになるように貼ります。(視覚障害者の多くは、手すりを握るよりも手すりの上面に手を沿わせて歩くことが多い)
- ⚠ 点字は左から右に読みます。
- ⚠ 点字シールは剥がれやすいのでメンテナンスが必要です。
- ⚠ 手すりが2段の場合は、上下段とも表示することが望まれます。

点字の大きさと並べ方

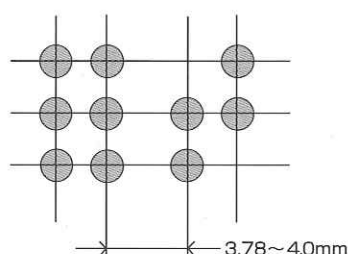
大きさ



点字の構成

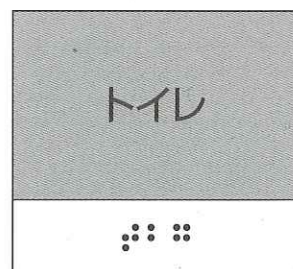
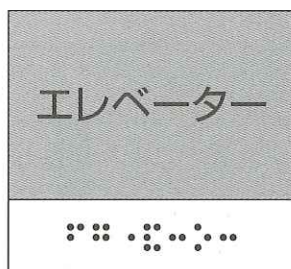
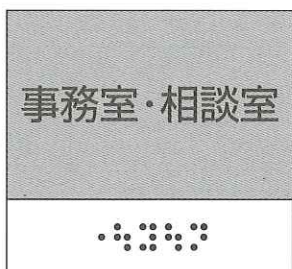
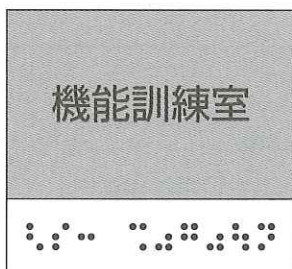


点字間のピッチ



点字による表示例

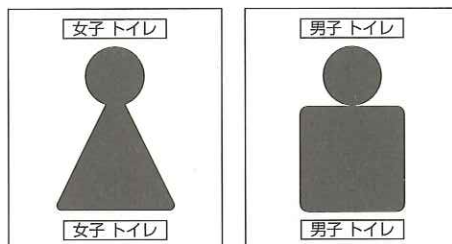
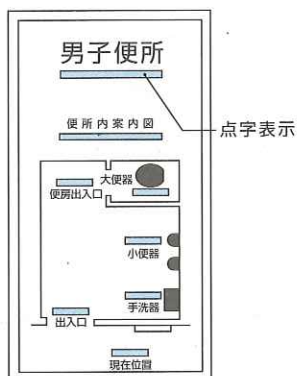
- ⚠ 客室札や廊下手すりに点字表示をすることが望まれます。
- ⚠ 文字(墨字)との併記をすることが望まれます。
- ⚠ 壁面に取り付ける場合は、中心までの高さを120cm程度とします。



1 技術的資料

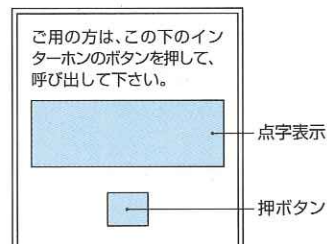
(4) 点字などの表示②

各部屋用点字表示板の例



- ⚠ 点字を読めない視覚障害者にもわかるよう、文字やマークを浮きあがらせたり、色分けをして、男女の区別がつくようにします。
- ⚠ 文字の部分を点字で表示します。

玄関表示板の例



- ⚠ 大きな文字は浮き文字にすることが望まれます。
- ⚠ 墨字と点字を併記することが望まれます。
- ⚠ 壁面に取り付ける場合は、中心までの高さを120cm程度とします。

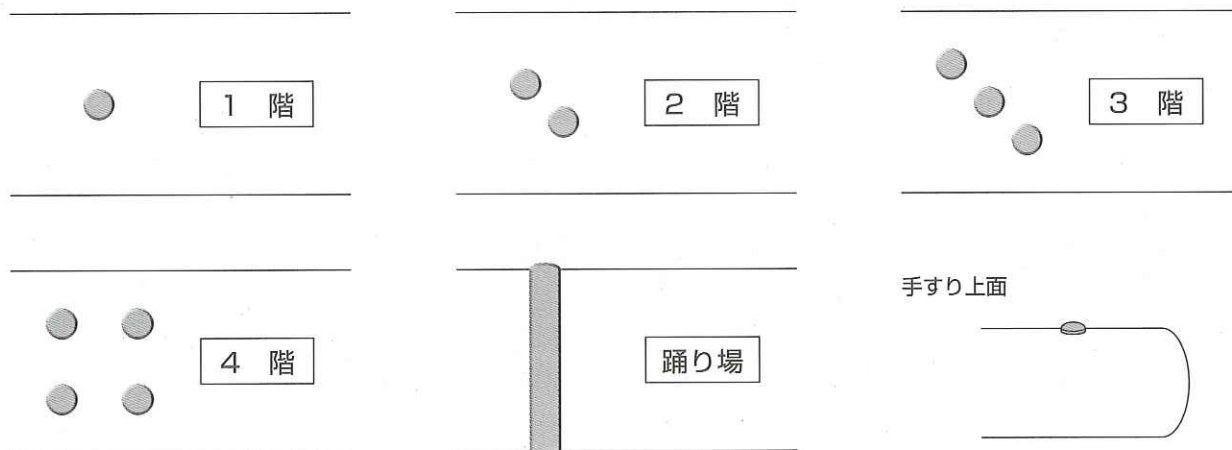
エレベーター乗場ボタン及びかご内操作盤の点字表現の例

	乗場ボタン			かこ内操作盤						
呼 称	昇 り	降 り	乗 場 階床数	戸 開	戸 閉	インター ホン呼	行 先 ボ タ ン			
視眼者 マーク (例)										
点 字	ウ エ	シ タ	5カイ	ア ケ	シ メ	ヒジヨー	チカ1	チュー2	(6) 数 符	オ ク

- ⚠ 押ボタンと点字表示にできるだけ近づけることが望まれます。

階段手すりの鉾や溝などによる表示例

- ⚠ 階段の手すりに鉾や溝などで凹凸の印をつけて、階数や踊り場の表示をすることが望まれます。



10 体験することから始めよう!②(アイマスク体験編)

実際にアイマスクをつけた歩行や介助を自分で体験してみましょう。

また、体験会をする場合は、目の不自由な人に体験談などを話してもらうことも大切です。

《注意!!必ず守って下さい》

- ◇悪ふざけや危険な行為は、絶対にしないこと。
- ◇道路などの危険な場所では、単独で行動をしないこと。
- ◇恐怖や危険を感じたら無理をしないこと。
- ◇アイマスク体験で一人で歩くことは危険ですので、安全な場所で周りに見守ってくれる人がいることを確認して行ってください。

●アイマスクのつけ方

- ・雑菌等から目を守るために、ティッシュペーパーを内側にあてて使いましょう。
- ・周囲や足元が見えないように、またすり落ちないようにしっかりと取り付けましょう。
- ・メガネは外して、落とさないようにポケット等へしまってください。

●白杖の持ち方

- ・白杖は視覚障害者の歩行の安全を確保するための道具です。
- ・片手で軽く握り、足元前方を左右振って障害物や路面の凹凸の状態などを確認します。

●体験内容例

介助を受けて歩いたり、介助をしたりしましょう。

体験項目	体験のポイント
建築物	・いすへの着席・立ち上がりなどの動作、室内での移動
	・ドアの開閉、廊下の通行、階段の上り下り、エレベーター
	・道路から敷地内通路(視覚障害者誘導ブロック、段差など)
	・公衆電話、水飲み器、自動販売機などの利用 など
道路	・歩道の幅、傾き、舗装の状態、障害物など
	・進行方向がわかるか
	・視覚障害者誘導ブロック(線ブロックと注意ブロックの違い)
	・車道と歩道の違いがわかるか
	・音響式信号機(方向、音の大きさ、時間)
	・自動車等の騒音 など

[P.108、142(介助方法)参照]

- ◇アイマスクを装着する時間は長い方がより現実に近い体験ができます。しかし、初めての場合はたいへん疲れますので、気分が悪くなったり強く不安を感じた時は、アイマスクを外して休憩してください。

●その他の体験(時間があればこんなことも試してみてください)

- ◇アイマスクをつけてさわってみよう。
 - ・お金(お札や硬貨の種類の違いがわかるでしょうか。)
 - ・テレホンカード(どちらの方向から差し込めばよいのか。)
- ◇グループのメンバーの声を聞き分けることができますか。
 - ・声のする方向、声をかける人の年齢や性別など

●体験のあとは意見交換を(P.178参照)

■アイマスク体験の様子

津山市「心のバリアフリー体験会」より

